

東日本大震災被災地派遣 活動報告

(平成26年4月～)

福島県 商工労働部 観光交流局 観光交流課
主事 伊藤 雅紀



福島県の現状(1) 概況

- 三重県と比べ、面積は約2.4倍、人口は約1.1倍
- 東京駅から東北新幹線で、郡山1:20、福島1:35
- 東日本大震災による、地震＋津波＋**原発**被害



福島県の現状(2) 観光・交流

- H26観光客入込数 震災前の約82.2%(約4,690万人)
- H26教育旅行宿泊数 震災前の約49.4%(約35万人泊)
- 人口減少を取り巻く環境は全国で最も厳しい



担当業務（定住・二地域居住の推進）

- 震災前は移住希望地ランキング上位の常連県
- 他県より不利な条件→“やりたいことができる”をメリットに
- 移住・交流への誘導策としての「**ふくしまファンクラブ**」「**ふくしま大交流フェア**」を主担当



ふくしまファンクラブ



- 県出身者、愛着をもつ方 会員数約15,000人(県外8割)
- 会報誌、メールマガジン、フェイスブック、イベントブース出展
- 首都圏大学生を活用したPR動画制作(H27)



ふくしま大交流フェア

- 福島県主催の首都圏最大イベント
- 会場は東京国際フォーラム、来場者1万人以上
- オール県庁・オール福島で元気と魅力、復興を発信する



福島での執務で感じたこと

- 県のファンを育てておくことの大切さ
- 多様な応援職員を束ねる力
- “課題先進地” = 課題解決のトレーニングの場



派遣の心得

- 基本的な事務能力(入札、契約、補助金)
- 好奇心・行動力
- 変わらない自分



ご静聴ありがとうございました。

